

令和 7 年度

シラバス(専門教科)

～農林技術科 3 年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

農林技術科 3 年 専門教科

課 題 研 究	・ ・ ・ ・ ・	P 1
総 合 実 習	・ ・ ・ ・ ・	P 3
野 菜	・ ・ ・ ・ ・	P 5
畜 産	・ ・ ・ ・ ・	P 7
農 業 経 営	・ ・ ・ ・ ・	P 9
農 業 機 械	・ ・ ・ ・ ・	P 11
食 品 製 造	・ ・ ・ ・ ・	P 13
林産物利用	・ ・ ・ ・ ・	P 15
測 量	・ ・ ・ ・ ・	P 17
地域資源活用	・ ・ ・ ・ ・	P 19

課題研究	単 位 数	3 単位
	学科・学年・学級	農林技術科・第3学年・各専攻

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1) 生徒自ら課題を設定して計画を立て実施することで、計画性、実践力及び問題解決の能力を養います。 (2) 自主的、継続的に学習することで探求的、創造的な態度と能力を身に付けます。 (3) 課題解決により、成就感と自信を持つことで、自己実現を図る能力と態度を身に付けます。
使用教科書・副教材等	各専攻によって異なる。

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他 教科・総合的な学習の時間・特 別活動等との関連など）
1 学 期	課題発見とテーマの決定 計画（計画の立案） 実施（学習活動）	4	・課題研究の意味を理解します。	・農業の専門教科での学習を 基本に担当教員と綿密に打 ち合わせをします。 ・計画に従い無理の無いよう 実施します。
		5	・自分の専攻班の中で課題を見出し、研 究テーマを決定します。	
		6	・テーマに従って課題解決の計画を作り ます。	
		7	・計画に従って学習活動を行います。	
【課題・提出物等】 ・テーマ及び計画書を提出します。 ・実施日誌等を提出します。				
【第1学期の評価方法】 ・学習に取り組む態度や意欲（服装，出席状況，提出物等）により評価します。				
2 学 期	実施（学習活動） 学習のまとめ 発表原稿の作成	9	・1学期に引き続き活動を行います。	・実施の状況を担当教諭と連 携をとりの確な実践になる ようにします。 ・得られた結果が適切に理解 できるようにまとめをし ます。
		10	・学習結果に従い結果をまとめます。	
		11	・発表に備え，原稿のまとめやプレゼン テーションの作成を行います。	
		12	・データの分析や考察の検討を通して， 論理的思考を身に付けます。	
【課題・提出物】 ・実施日誌等を提出します。 ・課題研究のまとめを提出します。				
【第2学期の評価方法】 ・学習に取り組む態度や意欲（服装，出席状況，提出物等）により評価します。				

3 学 期	研究発表	1 2 3	・作成した原稿とプレゼンテーションを 用いて発表します。 ・研究冊子 まとめ	・結果を整理し的確な発表を 行います。
【課題・提出物等】 ・実施日誌等を提出します。 ・課題研究のまとめを提出します。				
【第3学期の評点方法】 ・学習に取り組む態度や意欲（服装、出席状況、提出物等）により評価します。				
【年間の学習状況からの評価方法】 1学期の成績，2学期の成績及び3学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。				
確かな学力を身に付けるためのアドバイス		農業科目という一つの観点で見のではなく，その他の科目（国語や数学など）の観点からも見つけ考えなければならない。苦手分野もこの課題研究に取り入れることによって，自分の学力につなげてもらいたい。		
授業を受けるに当たって守ってほしい事項		普段疑問に思っていたことや研究してみたいことを課題とし，その課題解決のために様々な観点から考察できるように，普段から積極的に授業に取り組んでもらいたい。		

（2） 評価の観点，内容及び評価方法

皆さんの学習状況は，「知識・技能」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知 識 ・ 技 能	・ 課題解決に向けての実習や実験内容の基本的な知識を理解し，そのための技術が身に付いている。	・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 発表 ・ 記録簿（まとめ・考察・感想）
思考・判断・表現	・ 課題を多面的にとらえ考察を行っている。 ・ 課題を科学的にとらえ合理的に解決する実践的な態度を身に付いている。 ・ 結果の考察などが正確に表現できるか。	・ レポート （日誌のまとめ，考察・感想）
主体的に学習に取り組む態度	・ 課題の設定や計画立案を積極的で，解決に向けて協働的に取り組む態度が身に付いている。 ・ 実習に対する服装や姿勢が，良好で意欲に学習している。	・ 実験の進め方 ・ 器具の取扱い ・ レポート （日誌のまとめ，考察・感想）

3 担当者からのメッセージ

・ 実習での調査，観察，スケッチ，教室での講義，実験室での実験など様々な形態での学習を行います。 ・ 1，2年での学習のときに課題をあらかじめ見つけるようにしましょう。 ・ 実験や実習などを通して今まで見つけられなかった自分自身の素晴らしい点を見つけてみましょう。
--

(新課程用)

総合実習 (部門別)	単位数	3単位
	学科・学年	農林技術科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1)体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得します。 (2)専攻においての内容理解を深め、基礎的専門分野の知識や実技など実践的な能力と態度を育てます。
使用教科書・副教材等	実験実習ノート

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査
一 学 期	専攻別での専門学習 ・ 大家畜・作物班 ・ 中小家畜班 ・ 園芸班 ・ 林業班 ・ 食品加工班	4	・ 専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・ 農業技術検定の初級・中級の合格を目指します。 ・ 農業鑑定競技や意見発表を通して、農業に関する知識を深めます。	・ レポートの書き方と整理法について学びます。 ・ 実技テストの実施について学びます。 ・ 各種競技会へ参加する態度を養います。 ・ 生産物の販売を行い、接客などを学びます。	
		5			
		6			
		7			
【課題・提出物等】 ・ 毎回の総合実習のレポート提出 ・ 意見発表原稿提出					
【第1学期の評価方法】 ・ 出席点 ・ 毎回の実習態度 ・ 毎回のレポート提出 ・ 校内農業鑑定競技 ・ 意見発表への積極的参加と結果 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	専攻別での専門学習 ・ 大家畜・作物班 ・ 中小家畜班 ・ 園芸班 ・ 林業班 ・ 食品加工班	9	・ 専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・ 農業技術検定の初級・中級の合格を目指します。 ・ 産業現場での総合的な実習を通して、農業生産工程管理やマーケティング、労働管理の手法などを学びます。	・ 各種競技へ参加する態度を養います。 ・ 生産物の販売を行い、接客などを学びます。	
		10			
		11			
		12			
【課題・提出物等】 毎回の総合実習のレポート提出					
【2学期の評価方法】 ・ 出席点 ・ 毎回の実習態度 ・ 毎回のレポート提出 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
三 学 期	専攻別での専門学習 ・ 大家畜・作物班 ・ 中小家畜班	1	・ 専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。	・ 実技テストの実施について学びます。	
		2			

期	・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	3	・農業技術検定の初級・上級の合格を目指します。	・生産物の販売を行い、接客などを学びます。
	【課題・提出物等】 毎回の総合実習のレポート提出			
	【3学期の評価方法】 ・出席点 ・毎回の実習態度 ・毎回のレポート提出 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。			
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。			

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技術」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・各専攻に関する基礎的な知識と技術を身につけ、特性と社会環境の関係や育成の過程等を理解しているか。	日本農業技術検定レポート
思考・判断・表現	・管理の記録を分析するなど課題を多面的に考察しているか。 ・見出した課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身につけているか。	レポート 意見発表
主体的に学習に取り組む態度	・各専攻学習に興味・関心を高めているか。 ・各専攻に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	プロジェクト発表 農業鑑定競技 レポート
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身につけるためのアドバイス	・農業技術検定を繰り返し勉強し、合格の目標を持って真剣に取り組んでください。 ・授業で学んだ事をレポートに書きとめ、積極的に質問して下さい。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業はチャイムと同時に始めますので、時間厳守で集合して下さい。 ・実験・実習の際は道具などの取り扱いには万全の注意をして下さい。 ・授業の最後は後片付けをしっかりとして下さい。 ・校外での実習等ではマナーをしっかりと守って下さい。
その他	・総合実習を通して、基本的な知識の習得から専門的な知識の理解を深めましょう。 ・農家や企業などの訪問を通して、地域との関わりを深め、地域農業を活性化しましょう。 ・プロジェクト発表や農業鑑定競技等の各種競技大会に積極的に参加し、自らの力を発揮しましょう。

野 菜	単 位 数	2 単位
	学科・学年	農林技術科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 農業科学基礎で習得した栽培に関する基礎的な知識と技術を発展させながら、野菜を対象に、総論から各論までを体験的な実験実習を通して、深い知識と技術をさらに習得させる。 2 これらの知識や技術をもとに、農業の各分野の発展に貢献する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	野 菜 （実教）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等の関連など)	考 査
一 学 期	野菜の生産と利用 1 人間生活と野菜 2 野菜の生産と消費の動向 野菜の生育と品質 1 種子と発芽 2 根の発達と肥大 3 茎葉と花芽の生育 野菜栽培の実際 1 ナス科野菜の栽培 2 ウリ科野菜の栽培 5 各野菜の栽培 (ネギ)	4 5 6 7	・人間生活においての野菜の役割を学んだ上で、生産と消費の動向から食品の価値を理解させる。 ・野菜の生育と品質について学習し理解させる。 ・春作野菜の基本的な性質から、各果菜類（ナス科、ウリ科）葉菜類（ネギ）の栽培知識と技術を理解させる。 ・地域の代表作物である深ネギ栽培を発展させ、地域の気候を生かした応用的な栽培法を理解させる。	・グループで担当する箇所と、個人で担当する箇所を作り、それぞれの実習の意味を理解します。 ・農家体験実習や地域環境調査を踏まえ、より発展的な栽培方法を考え実践します。	中間 考 査 期 末 考 査
	【課題・提出物等】 1 授業中に使用するプリント、ノートを各段階で提出します。 2 実験・実習についてはレポートを作成し、自己評価を行い、提出します。				
	【第1学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と学習に取り組む態度や関心・意欲などで評価します。 2 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
	野菜栽培の実際 3 アブラナ科の野菜の栽培 5 野菜の栽培 (タマネギ・レタス) 野菜の栽培と環境管理 1 野菜の健全な生育と環境 2 土壌管理と施肥 3 被覆資材の利用 4 施設栽培と環境管理 6 有害生物 (病害虫、雑草)の管理	7 9 10 11 12	・秋作野菜の基本的な性質から、気候条件を生かした各葉菜類（アブラナ科）の栽培知識と技術を理解させる。 ・タマネギ・レタスの栽培知識と技術を理解させる。 ・野菜栽培の土壌管理と施肥について知識と技術を理解させる。 ・被覆資材（マルチング材）について知識と技術を理解させる。 ・有害微生物の種類と特性を学び、防除法を理解させる。	・各野菜の特性を知り、市場調査を行います。 ・季節に応じた野菜の利用法と販売方法を理解するために、学外や対外的な行事に参加します。 ・野菜の栽培管理実習をとおして、施肥等の土壌管理を行います。 ・有害微生物の観察を行います。	中間 考 査 期 末 考 査
二 学 期	【課題・提出物等】 1 授業中に使用するプリント、ノートを各段階で提出します。 2 実験・実習についてはレポートを作成し、自己評価を行い、提出します。				
	【2学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と学習に取り組む態度や関心・意欲などで評価します。 2 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的				

	評価を行う。			
三 学 期	野菜の栽培と環境管理 7 果菜類の育苗 8 葉菜類の育苗 9 セル成型苗の育成 これからの野菜経営 1 野菜生産の経営的特徴 2 野菜の流通の仕組みと販売 3 作業体系の改善 4 これからの野菜生産と経営	1 2 3	・育苗の基本的な方法を学び、それぞれ（果菜類苗、葉茎菜類苗）の管理方法を理解する。 ・これまで学んだ野菜栽培から、これからの野菜生産の課題を見つけ、経営としての野菜栽培を理解する。	・栽培の基本である播種から育苗にかけての作業に組み、農業の他の分野での活用を考えます。
【課題・提出物等】 1 授業中に使用するプリント、ノートを各段階で提出します。 2 実験・実習についてはレポートを作成し、自己評価を行い、提出します。				
【三学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と学習に取り組む態度や関心・意欲などで評価します。 2 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	(1) 教科書を読むなどして予習をしましょう。 (2) 授業時間内の指導者の指示をよく聞き、指示された内容に集中して取り組む姿勢を持ちましょう。 (3) 地域の農業の状況も観察し、学校農場の栽培状況と比較し、異なる点については調べてみましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	(1) 座学においては、教科書・ノート・プリント綴り、実習においては、実習服など学習に必要な道具の準備を忘れないこと。 (2) 授業中の指導者の指示に従うこと。特に、実習においては注意されたことを守ること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・野菜の栽培や利用など野菜に関する基礎的な知識を身につけ、野菜の特性と生育環境の関係や育成の過程を理解しているか。 ・栽培や利用など草花に関する基礎的な技術を身につけているか。	・継続的な記録の有無（ノート）授業の中で使用するプリント ・草花の扱い方、農具の取り扱い ・プロジェクトレポート ・定期テスト
思考・判断・表現	・野菜の栽培管理の記録を分析し課題を多面的に考察しているか。 ・見出した課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身につけているか。	・授業中で使用するプリン ・プロジェクトレポート（感想・考察）
主体的に学習に取り組む態度	・野菜の栽培や草花の社会的な役割など野菜と野菜学習に興味・関心を高めているか。 ・野菜の栽培に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	・学習活動への参加の仕方や態度

3 担当者からのメッセージ

(1) 畑等での調査・観察、スケッチ、教室での講義、レポート作成、グラフ作成など様々な形態の学習を行います。 (2) 指示をよく聞いて、提出物は必ず出しましょう。また、学習道具や実習服などの学習に向けての準備するものを忘れないことが大切です。 (3) 1年次の「農業と環境」の栽培部門で学習した内容が、この「野菜」の授業でさらに深まります。体験的、科学的な学習をとおして、さらに知識と技術を身につける努力をしましょう。

(新課程用)

畜 産	単 位 数	2 単 位
	学科・学年	農 林 技 術 科 第 3 学 年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させる。 2. 家畜の特性や飼育環境を理解させる。 3. 合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書：実教 「畜 産」 副教材：日本農業技術検定問題集

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項他)	考 査
一 学 期	○家畜の飼育 (3) 酪農	4	・乳牛の特性について学ぶ	畜産農家やJ A, 獣 医等との連携	中 間 考 査
	(4) 肉用牛	5	・乳牛の繁殖と飼育管理について学ぶ		
		6	・乳牛の病気と予防衛生について学ぶ		
		7	・牛舎の付属施設や器具について学ぶ ・肉用牛の特性と経営形態について学ぶ ・肉用牛の品種と改良について学ぶ ・飼育形態と施設・設備について学ぶ		
【課題・提出物等】 授業ノートの提出及び考查毎のノート提出を行います。					
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。 1. 毎時間の学習に取り組む意欲・態度（忘れ物・遅刻・服装・出席）や興味・関心について、課題の提出状況（ノート・レポート）と定期考查等の成績などで評価します。 2. 実習を伴う科目のため、実習における興味・関心・意欲・態度等を時間毎に評価します。					
二 学 期	(5) そのほかの家畜 (6) 野生動物への対応	7	・肉牛の生理と飼育技術について学ぶ	畜産農家やJ A, 獣 医等との連携	中 間 考 査
		9	・飼料の種類と給与について学ぶ		
		10	・肉用牛の衛生と病気について学ぶ		
		11	・肉牛経営とその改善について学ぶ		
二 学 期	(5) そのほかの家畜 (6) 野生動物への対応	12	・ウマ, ヤギ, メンヨウなどについて基本的なことを学ぶ ・野生鳥獣害の原因と対策について学ぶ		期 末 考 査
【課題・提出物等】 授業ノートの提出及び考查毎のノート提出を行います。					
【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。 1. 毎時間の学習に取り組む意欲・態度（忘れ物・遅刻・服装・出席）や興味・関心について、課題の提出状況（ノート・レポート）と定期考查等の成績などで評価します。					

	2. 実習を伴う科目のため、実習における興味・関心・意欲・態度等を時間毎に評価します。			
三 学 期	○畜産経営の改善	1 2 3	・畜産経営の収益構造，価格の変動，技術成績と収益などについて学びます ・経営の6次産業化，ブランド化，トレーサビリティ，農業生産工程管理（GAP）などについて学びます	学 年 末 考 査
	【課題・提出物等】 授業ノートの提出及び考査毎のノート提出を行います。			
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。 1. 毎時間の学習に取り組む意欲・態度（忘れ物・遅刻・服装・出席）や興味・関心について，課題の提出状況（ノート・レポート）と定期考査等の成績などで評価します。 2. 実習を伴う科目のため，実習における興味・関心・意欲・態度等を時間毎に評価します。			
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。 1学期の成績，2学期の成績及び3学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。			

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	体験的，継続的な飼育活動と観察，実験，調査，記録などの学習活動をととして家畜の生理・生態的な特性や飼育環境及びそれらと生育の相互関係を理解し，飼育に関する基本的，体系的な知識と技術を習得したか。	・飼育活動や学習活動への参加の仕方 ・提出物や配布資料の利用方法 ・定期考査や実習態度
思考・判断・表現	体験的，継続的な飼育活動と観察，実験，調査，記録などの学習活動をととして課題を多面的に考察し，家畜の生理・生態的な特性や飼育環境及びそれらと生育の相互関係を理解し，それらを活用して課題を適切に判断して，課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力及び，家畜の観察や考察などを正確に表現できたか。	・飼育活動や学習活動への参加の仕方 ・提出物 ・配布資料の利用方法 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	家畜の飼育と経営の学習をととして，畜産が豊かな生活を提供する社会的役割を担っていることを理解し，飼育の楽しさを体験することで，畜産に関する学習に主体的に取り組めたか。	・飼育活動や学習活動への参加の仕方 ・提出物 ・配布資料の利用方法 ・定期考査や・実習態度
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	①授業をしっかりと聞き，重要な文章には赤線を引く。 ②ノートは大きな字で書く。 ③分からないところはそのままにせず，先生に聞きにくる。 ④疑問を持つこと。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	①座学では始まりのチャイムで着席しておくこと。 ②積極的に発言すること。 ③実習では，先生の注意や指示を厳守すること。 ④服装は正しく着用すること。
その他	・継続的に管理する事で家畜の見方や扱い方や管理を学び，家畜に対する興味・関心を持ってもらいたい。 ・家畜の調査，観察，スケッチ，実験を通じて，家畜への理解を深め，今後の畜産について考えよう。 ・放課後や空き時間を利用して積極的にプロジェクト学習に取り組みましょう。

農業経営	単 位 数	2 単 位
	学科・学年	農林技術科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 農業経営について体系的・系統的に理解し，関連する技術を身につける。 2 課題を発見し，合理的かつ創造的に解決する。 3 経営のマネジメントやマーケティングを自ら学び，農業振興や社会貢献に取り組む。
使用教科書・副教材等	農業経営（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項，他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	考 査 範 囲
1 学 期	「農業経営」の学習について 農業の動向と農業経営 ア我が国と世界の農業 イ今後の農業経営と食料生産の方向 農業経営の組織と運営 ア農業経営の主体と目標 イ農業生産の要素 ウ農業経営組織の組み立て	4	・農業経営の学習の意義や内容，学習や評価の方法を理解します。	出席・態度・意欲を評価します。	中間 考 査
		5	・世界の農業の現状や世界と日本の農業の動向，食糧の需給と貿易について理解します。		
		6	・農業・農村の機能と役割，環境の保全，消費の変化，持続的農業の進展，有機農産物，農業経営の変化について理解します。	出席・態度・意欲を評価します。	期 末 考 査
		7	・農業経営の目標，生産と経営の要素，経営組織，経営部門の選択，農業経営組織のなりたちと組み立て，GAPに関する内容を理解します。		
2 学 期	エ生産組織と法人化 オ農業経営の運営 農業経営の会計 ア簿記の基礎 イ簿記の実際 ウ原価計算	9	・生産組織，農業法人経営，経営者能力と管理運営，農業経営の集約化，経営の規模拡大について理解します。	出席・態度・意欲を評価します。	中間 考 査
		10	・簿記，資産，負債，資本，収益，費用，取引と勘定，仕訳と転記，仕訳帳と総勘定元帳，試算表，清算表，決算について理解します。		
		11	・債務，資産・負債の種類と固定資産，家族経営の資本，収益・費用，決算，帳簿と伝票について理解します。	出席・態度・意欲を評価します。	期 末 考 査
		12	・内部活動と原価計算，生産費と農家資産の評価，複式簿記による原価計算，原価計算の仕組みについて理解します。		

3 学 期	農業経営の診断と設計 ア農業経営の診断	1	・農業経営診断の要点と指標，経営 診断の基準・方法，家族経営の分析 と診断について理解します。 ・経営設計の手順と内容，経営設計 の方法，マーケティングやGAPの 活用，農業経営改善計画例について 理解します。	出席・態度・意欲を 評価します。	学 年 末 考 査
	イ農業経営の設計	2			
		3			
【年間の学習状況からの評価方法】 1 学期の成績，2 学期の成績及び3 学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。					

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	① 始業のチャイムで授業を始める準備が整っているようにしよう。 ② 農業経営者の視点を持って授業を受けよう。 ③ 授業はしっかり聞き，復習をしよう。 ④ 新聞等で時事問題を考えるようにしよう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	① 忘れ物がないようにする。 ② 授業中は集中し，積極的に発言しよう。

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	(1) 教科書を読むなどして予習をしましょう。 (2) 授業時間内の指導者の指示をよく聞き，指示された内容に集中して取り組む姿勢を持ちましょう。 (3) 地域の農業の状況も観察し，多様な経営形態について学習しましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	(1) 座学においては，教科書・ノート・プリント綴り，実習においては，実習服など学習に必要な道具の準備を忘れないこと。 (2) 授業中の指導者の指示に従うこと。特に，実習においては注意されたことを守ること。

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

皆さんの学習状況は，「知識・技能」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	農業経営に関する基礎的な知識や技術を身につけ，経営の順序立ての過程を理解している。	学習活動への取組 レポート 定期考査
思考・判断・表現	農業経営に関する課題を多面的に見だし，合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけている。	学習活動への取組 レポート 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	農業経営について興味・関心をもち，経営発展につながる自らの学びや意欲的に取り組む態度を身につけている。	学習活動への取組 提出物

3 担当者からのメッセージ

農業経営は，社会や経済等の時事問題にもつながる分野を含む科目です。新聞等を読むなどして幅広い視野を持ち，興味・関心を高めてください。

(新課程用)

農 業 農業機械	単 位 数	2 単位
	学科・学年	農林技術科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 農業機械の構造と機能についての理解と関連する技術を身につける。 2 農業機械に関する課題を見いだし、合理的解決する力を養う。 3 農業機械の特性を理解し、効率的な利用を自ら学び、主体的・協働的に取り組む。
使用教科書・副教材等	農業機械（実教出版） チャレンジライセンス丙種危険物取扱者テキスト

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項他)	考 査
一 学 期	第4章 作業機 4 畑作用収穫・調製用機械	4	・畑作物の収穫に使われる機械について理解します。	・危険物取扱試験対策に取り組みます。	中間 考 査
	5 飼料用収穫・調製用機械	5	・収穫物の調製に使われる機械や施設について理解します。	・収穫用機械の使用法について作物の特徴や、生産規模による違いについて調査します。	
	6 運搬用機械	6	・飼料作物の利用方法と、使われる機械の関係について理解します。	・身近な貯蔵施設について調査します。	
	7 環境調節用機械	7	・飼料作物の収穫・調製に使われる機械の種類と特徴について理解します。	・身近な貯蔵施設について調査します。	
	第5章 農業機械と安全 1 農業機械の整備と保守		・運搬用機械の種類と特徴を理解します。 ・運搬用機械の安全な利用法を身に付けます。 ・温湿度調節機械の種類と特徴を理解します。 ・自動制御と環境制御機器の概要を理解します。 ・農業機械の整備が、安全作業のためにも重要であることを理解します。 ・農業機械の保守に必要な溶接の技術を身に付けます。	・まとめとしてレポートにまとめ提出します。	期末 考 査
【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノート提出，テスト訂正の提出					
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	2 農作業による事故と健康障害	9	・農作業による事故の内容とおもな原因を理解します。	・危険物取扱試験対策に取り組みます。	中間 考 査
	3 安全に関する法規	10	・農作業による健康障害について理解します。	・ガス切断やアーク溶接を行うために必要な労働安全衛生法による資格取得について調査します。	
	第6章 農業生産と農業機械の利用 1 農業機械の効率的利用	11	・機械の取り扱い方と安全の関係を理解します。	・農作業安全に関係する法律や基準について調査調します。	
	2 農業機械化体系の作成	12	・農作業を安全に行うために必要な法規理解します。	・まとめとしてレポートにまとめ提出します。	
			・罰則の有無にかかわらず、法規などを守る心がまえを身に付けます。 ・作業能率と作業負担面積の計算方法を身に付けます。 ・機械利用経費の計算方法を身に付けます。 ・機械の経済性について正しく判断できる方法を身に付けます。 ・作付体系と農業機械化体系との関係を理解します。 ・経営体系と農業機械化体系との関係を理解します。 ・農業機械化体系で使われる個々の機械を正しく選択する方法を身に付けま		期末 考 査

			す。		
	【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノートの提出，テスト訂正の提出				
	【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三 学 期	第7章 農業機械による自動化 1 作業工程の自動化 2 農業機械の高度化	1	・農作業工程の自動化の概要を理解します。 ・農業機械の自動化のしくみを理解します。 ・高度な農業機械の種類と特徴を理解します。 ・農業用ロボットの概要を理解します。	・農業用ロボットについて調べます。 ・まとめとしてレポートにまとめ提出します	学 年 末 考 査
	【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノートの提出，テスト訂正の提出				
	【3学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	農業機械について体系的・系統的に理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。	・定期考査，発言 ・レポート記入 ・行動観察，実技
思考・判断・表現	農業機械に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	・発表の仕方や内容 ・定期考査，レポート ・行動観察，実技
主体的に学習に取り組む態度	農業機械について特性を理解し，効率的な利用につながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・出席状況 ・定期考査，発言 ・行動観察，実技
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・農業機械は，IoTやスマート農業の導入など，最新の技術が投入され日々進化する分野です。高校の学習で基礎的な知識を身に付けながら，時代の変化に対応するために様々な情報を取り入れ，将来に活かしましょう。 ・地域を支える視点で自分たちができることは何か考え，積極的に授業に望むことを期待しています。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・座学においては，教科書・ノート，実習においては，実習服など学習に必要な道具の準備を忘れないことが大切です。 ・授業中の指導者の指示に従うこと。特に，実習においては危険を伴う場合があるため，指導・注意されたことを守るようにしましょう。 ・指示をよく聞いて，提出物は必ず出しましょう。
その他	・夏休みに車両系建設機械および小型移動式クレーンの資格取得講習が実施されます。人数制限がありますので，希望者は検討しておいてください。 ・危険物取扱者試験にも積極的に挑戦し，資格取得を目指して取り組みましょう。

教科 農業 (科目) 食品製造	単 位 数	2 単位
	学科・学年	農林技術科 ・ 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法および貯蔵の原理を理解します。 2 品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てます。 3 1と2の学習の成果に立って、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、食品製造や加工技術の発展を図る能力と態度を育てます。
使用教科書・副教材等	・教科書 実教出版 「食品製造」 ・副教材 農業技術検定問題集「食品科学」の分野

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備 考 (学習活動の特記事項、他 教科・総合的な学習の時間・ 特別活動等の関連など)	考 査
一 学 期	(1)第4章 食品加工と食品衛生	4	(ア)食品の安全確保と衛生管理の重要性を理解し、安全で衛生的な食品を製造する態度を身につけます。	○機械の説明や実習の内容について復習します	中 間 考 査
	(2)第5章 食品の包装と表示	5	(ア)食品包装の目的、包装材料の種類や技術について理解します。また、包装に用いる機器の操作技術を身につけます。	○食品製造実習を行います。	期 末 考 査
	(3)第6章 4 野菜類の加工	6	(ア)野菜類の分類や成分を学習し、さらに生理特性やおもな加工品について理解します。	・ジャム類 ・梅干し ・豚みそ ・麦みそ ・甘酒 ・漬け物	期 末 考 査
	【課題・提出物等】 ○考査終了後、授業で記録したノートと考査での訂正を提出します。 ○実習の始めに製造についての口頭質問をして、理解度を確認します。 【第1学期の評価方法】 ○定期考査（中間考査、期末考査）の成績点を約6～7割、平常点（出席状況、授業態度、提出物など）を約4～3割として評価します。				
二 学 期	(4)第7章 2 牛乳の加工	7	(ア)牛乳の成分の特徴と加工特性および牛乳の加工品の種類を理解します。	○食品製造実習を行います。	中 間 考 査
	3 鶏卵の加工	9	(ア)乳化性・熱凝固性・起胞性など、鶏卵のおもな加工特性を実験・実習を通して理解します。	・アイスクリーム ・デコレーションケーキ ・豚味噌・ジャム類 ・麦みそ・甘酒 ・クッキー ・パン ・パウンドケーキ	期 末 考 査
	(5)第9章 食品製造の実践と企業化	11	(ア)これまでの学習をもとに、生産管理の改善をはかるための品質管理・工程管理・および作業体系について理解します。		期 末 考 査
	【課題・提出物等】 ○考査終了後、授業で記録したノートと考査での訂正を提出します。 ○実習の始めに製造についての口頭質問をして、理解度を確認します。				

	【第2学期の評価方法】				
	○定期考査（中間考査，期末考査）の成績点を約6～7割，平常点（出席状況，授業態度，提出物など）を約4～3割として評価します。				
三 学 期	(5)第9章 食品製造の実践と企業 化	12	(イ)これまでの学習を振り返り，自分たちの 開発した商品が，経営発展・地域振興・環境 負荷の少ない食品の製造方法であるかどうか などを自己評価することで，今後の進路への 参考とします。	○食品製造実習を行 います。 ・パン　・クッキー ・スポンジケーキ ・豚味噌　・麦みそ ・ジャム類　・甘酒	卒 業 考 査
		1			
		2			
		3			
	【課題・提出物等】				
	○考査終了後，授業で記録したノートと考査での訂正を提出します。				
	○実習の始めに製造についての口頭質問をして，理解度を確認します。				
	【第3学期の評価方法】				
	○定期考査（卒業考査）の成績点を約6～7割，平常点（出席状況，授業態度，提出物など）を約4～3割として評価します。				
	【年間の学習状況からの評価方法】				
	○1学期から3学期までの成績の平均を基準として評価します。				

確かな学力を身に付ける ためのアドバイス	○座学で習得する知識と製造実習で習得する知識・技術をリ ンクさせて，食品の特性と加工方法および貯蔵の原理を理 解しましょう。
授業を受けるに当たって 守ってほしい事項	○衛生管理，健康管理，整理整頓を常に念頭において，製造 実習に取り組みましょう。 ○板書は必ず記録しましょう。

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

皆さんの学習状況は，「知識・技能」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観
点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	○食品製造について体系的・系統的に理解す るとともに，関連する技術を身に付けている か。	○定期テスト ○提出物 ○製造実習における態度 ○機械や器具の操作
思考・判断・表現	○食品製造に関する課題を発見し，農業や農 業関連産業に携わる者として合理的かつ創造 的に解決する力を養っているか。	○定期テスト ○プリント ○製造実習における態度 ○商品開発作品
主体的に学習に 取り組む態度	○食品製造について生産性や品質の向上が経 営発展へつながるよう自ら学び，農業の振興 や社会貢献に主体的かつ協働的な態度を養っ ているか。	○製造実習における態度 ○商品開発

3 担当者からのメッセージ

他人の生命にかかわる分野でもあり，安全衛生面が第一ですので，日々の自己管理をきちんとし
てください。HACCPについて熟知し，卒業後の進路先で実践しましょう。
また，常に商品開発を視野に入れて学習してほしいです。

(新課程用)

農 業 林産物利用	単 位 数	2 単位
	学科・学年	農林技術科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 木材の構造、性質や用途を理解し、木材を製材、加工、利用する知識と技術を習得する。 2 製材に関すること、木材工作に関すること、木材の乾燥や保存に関することについて課題を見いだし、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 林産物の多様な利用について自ら学び、主体的協働的に取り組む姿勢を身につける。
使用教科書・副教材等	林産物利用（実教出版）、林業白書

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項他)	考 査	
一 学 期	第 4 章 木材の加工と利用	4	・木材の改良と成分の利用について理解します。	・合板を利用した木材加工品の製作に取り組みます。	中 間 考 査 期 末 考 査	
	第 1 節 改良木材の製造		・合板と集成材の接着法など製造法や用途について理解します。	・木材を利用した工芸品について調査します。		
	第 2 節 集成材	5	・改良木材の特性について考察します。	・木炭および木酢液の製造に取り組みます。		
	第 3 節 木質ボード類		・パルプの製造法や用途について理解します。	・まとめとしてレポートにまとめ提出します。		
	第 4 節 その他の木質材料		・パルプ原料としての木材の重要性について考察します。			
	第 5 節 木材の科学加工		・和紙の製造法や用途について理解します。			
	第 2 節 木材パルプと和紙	6	・和紙の特色や製品の工芸的価値について考察します。			
	第 1 節 木材パルプ		・木炭産業および薪産業について歴史的経緯、現行の生産方式、生産の担い手、製品流通、消費動向について調査し、当面する課題について考察します。			
	第 2 節 木材パルプの製造法	7				
	第 3 節 製紙					
【課題・提出物等】 配布プリントの提出， ノートの提出， テスト訂正の提出						
【第 1 学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。						
二 学 期	第 4 節 バイオマスの変換技術と利用	9	・木質バイオマスの変換利用について理解し，エネルギー効率などバイオマスの変換利用の当面の課題について考察します。	・木質バイオマスの利用方法について調査します。	中 間 考 査 期 末 考 査	
	第 1 節 バイオマスとは	10	・特用林産物の生産と加工について理解します。	・しいたけの原木栽培および菌打ちに取り組みます。		
	第 2 節 バイオマスの利用		・農山村における位置づけの重要性や広葉樹林業との関連性について考察します。	・まとめとしてレポートにまとめ提出します。		
	第 3 節 バイオマス利用の課題	11	・きのこ産業について歴史的経緯，現行の生産方式，生産の担い手，製品流通，消費動向について調査し，当面する課題について考察します。			
	第 5 章 特用林産物の生産と加工					
	第 1 節 きのこの生産と加工	12				
	第 1 節 きのこの生態					
	第 2 節 主なきのこの栽培					
	第 3 節 きのこの加工					
	【課題・提出物等】 配布プリントの提出， ノートの提出， テスト訂正の提出					
【 2 学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。						

三 学 期	第2節 山菜の加工 第3節 薬用植物の生産と加工 第4節 つる等の加工	1	・その他の特用林産物として竹、桐、山菜、薬用植物について、それぞれの加工法や特性について理解します。	・まとめとしてレポートにまとめ提出します。	学 年 末 考 査
	【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノートの提出，テスト訂正の提出				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	林産物の利用について体系的・系統的に理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。	・定期考査，発言 ・レポート記入 ・行動観察，実技
思考・判断・表現	林産物の理由に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	・発表の仕方や内容 ・定期考査，レポート ・行動観察，実技
主体的に学習に取り組む態度	林産物が多様な利用につながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・出席状況 ・定期考査，発言 ・行動観察，実技
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・実習も含めて，「林産物利用」の学習を一つ一つ着実にしていねいに積み重ね，林産物の加工など様々な場面で活用できる基礎知識や応用力実践力を身に付けてください。 ・地域を支える視点で自分たちができることは何か考え，積極的に授業に望むことを期待しています。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・座学においては，教科書・ノート，実習においては，実習服など学習に必要な道具の準備を忘れないことが大切です。 ・授業中の指導者の指示に従うこと。特に，実習においては危険を伴う場合があるため，指導・注意されたことを守るようにしましょう。 ・指示をよく聞いて，提出物は必ず出しましょう。
その他	・特用林産業が地域社会の振興および持続的発展に寄与していることについても考えてみてください。 ・実習では，学校生産物（鉢カバー，丸椅子，ベンチ，木炭，木酢液）の製作にも取り組みます。指導者の指示に従い，事故や怪我をしないように真剣に取り組ましましょう。

(新課程用)

農業 測量	単位数	2 単位
	学科・学年	農林技術科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1) 測量について，体系的・系統的に必要な知識と技術を身につける。 (2) 測量に関する課題を合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 測量について国土保全や環境創造の応用について自ら学び，主体的協働的に取り組む態度を身につける。
使用教科書・副教材等	農業測量（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単元名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項他)	考 査
一 学 期	1 トラバース測量の進め方 種類，踏査・選点	4	・トラバース測量の種類や測定 の基本について理解します。	総合実習で，観測 から計算，製図ま での流れを取り扱 います。 ・農業クラブ平板 測量競技大会へ向 けての練習にも取 り組みます。	中間 考 査
	2 トラバース測量の外業 角，距離の測定	5	・トラバース測量の外業（機器 を用いた測量）が出来るように 学びます。		
	3 トラバース測量の内業 (1)方位角，方位の計算 (2)緯距・経距の計算	6 7	・トラバース測量の内業（方位 角，方位，緯距，経距の計算お よび誤差の点検，調整）が出来 るように学びます。		期 末 考 査
	【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノートの提出，テスト訂正の提出				
【第1学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と定期考査等の成績や小テスト などで評価します。 2 定期考査70%，学習に取り組む態度や関心・意欲（忘れ物・遅刻・服装・出席・授業 態度）20%，提出物（ノート・レポート）10%の配分で行います。 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	2 衛星測位と基準点測量	7	・基準点測量の基本と方式について 理解します。	トータルステーシ ョンによる観測方 法を総合実習で扱 います。	中間 考 査
	(1)基準点と基準点測量	9	・GPSの原理やその測量方法を学び ます。		
	(2)基準点測量のすすめかた	10	・トータルステーションによる観測 方法やその計算について理解しま す。		期 末 考 査
	(3)衛星測位による観測 (4)多角測量による観測	11 12	・基準点の成果表の利用について， 学びます。		
【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノートの提出，テスト訂正の提出					
【2学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と定期考査等の成績や実技などで 評価します。 2 定期考査70%，学習に取り組む態度や関心・意欲（忘れ物・遅刻・服装・出席・授業 態度）20%，提出物（ノート・レポート）10%の配分で行います。 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。					
三 学 期	3 写真測量	1	写真測量の概要と空中写真の性 質について学びます。・地理情報シ ステムについての概要や利用につ いて学びます。	実際の空中写真の 判読を行います。	卒 業 考 査
	(1)空中写真の性質	2			
	(2)写真測量の利用	3			
	(3)地理空間情報				

期	【課題・提出物等】 配布プリントの提出，ノートの提出，テスト訂正の提出
	【三学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と定期考査等の成績や小テストなどで評価します。 2 定期考査 70%，学習に取り組む態度や関心・意欲（忘れ物・遅刻・服装・出席・授業態度） 20%，提出物（ノート・レポート） 10%の配分で行います。 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。
	【年間の学習状況からの評価方法】 1 学期の成績，2 学期の成績及び 3 学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に 5 段階の評定にまとめる。

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・測量の目的に必要な知識を理解し，基礎的な知識を身につけ，測量の方法，誤差の調整等を理解しているか。 ・測量器具を正確に取り扱い，測量方法及び，誤差の調整における技術や能力を適切に身につけているか。	・学習活動への参加の態度 ・定期考査，レポート ・測量器具の取り扱い，方法，誤差の調整，面積の計算方法
思考・判断・表現	・測量の目的に応じて課題解決を目指した思考，測量結果の整理と誤差の原因について考察しているか。	・定期考査，レポート ・誤差の調整，製図
主体的に学習に取り組む態度	・測量の学習に興味・関心を高め，測量に関する課題に主体的，意欲的に取り組む実践的な態度を身につけているか。	・学習活動への参加の態度 ・出席状況 ・継続的な記録の有無
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの…………… A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…………… B 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	① 始業のチャイムで授業を始める準備が整っているようにしよう。 ② 授業はしっかり聞き，復習をしよう。 ③ 主体的に取り組ましよう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	① 忘れ物がないようにする。 ② 授業中は集中し，積極的に発言しよう。
その他	測量の主な目的は，地図や図面の作成，またこれらに含まれる情報を利用することである。その情報は，各種事業の調査・計画・設計・施工などを行う場合の技術的な基礎資料となる。測量とは，地球表面上にある各地点の相互の位置関係を測定して，その方向または角度・距離，高低差などを求め，その結果をもとに地図や図面を作成し，さらに形状・面積・体積などを算出する技術である。日常生活の中で，様々な場面で測量の技術が利用されていることを理解し，意欲的に授業に望むことを期待しています。

(新課程用)

(教科) 農業	単 位 数	2 単位
(科目) 地域資源活用	学科・学年	農林技術科 ・ 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 地域資源の活用について関連する技術を身に付ける。 2. 実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域資源の活用に関する課題を発見し解決する力を養う。 3. 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書・副教材等	・教科書 実教出版 「グリーンライフ」

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備 考 (学習活動の特記事項、他 教科・総合的な学習の時間・ 特別活動等の関連など)	考 査
一 学 期	(1) 本校の農畜産物と 地域資源活用	4	(ア) 本校の農畜産物についての飼育や栽培方法、価格等を知り、今後の学習の基盤とします。	○伊佐米・サツマイモの栽培を行います。	中 間 考 査 期 末 考 査
	(2) 地域資源活用の意義と役割	5	(イ) 「伊佐米」についての歴史を知ります。 (ア) 地域社会、コミュニティの変化と現状・課題について理解します。	○地元の特産品の市場調査 ○地域調査	
		6	(イ) 地域社会における課題解決に向けた施策を考案し、その方法について協働的に取り組みます。	○資源探検ワークショップ	
		7	(ウ) 異業種連携と商品価値について理解します。		
		【課題・提出物等】 ○ワークシート、考査終了後に授業で記録したノートと考査での訂正を提出します。 ○課題学習についての口頭質問・小テストを行い、自主性・理解度を確認します。			
【第1学期の評価方法】 ○学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価します。学期末において、観点ごとの総括的評価を行います。					
二 学 期	(3) 地域資源の価値と 活用	7	(ア) 地域資源と安定的な食料生産と環境保全	○伊佐米・サツマイモの栽培を行います。 ○商品開発に向けた実験実習を行います。	中 間 考 査 期 末 考 査
		9	及び資源活用について考察し、適切な資源を選定します。		
		10	(イ) 商品開発についての概要と実施の手順について理解します。		
		11	(ウ) サービス業への活用を理解し、地域ネットワークとの繋がりと有効活用の必要性を確認します。		
		12			
【課題・提出物等】 ○授業でのワークシート、考査終了後に授業で記録したノートと考査での訂正を提出します。					

○実習の始めに製造についての口頭質問・小テストを行い、理解度を確認します。					
【第2学期の評価方法】					
○学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価します。学期末において、観点ごとの総括的評価を行います。					
三 学 期	(3) 地域と連携した活動	12 1 2 3	(ア) 地域資源のマーケティングとブランドづくりについての知識・技術を習得し、魅力を伝える実践を行います。 (イ) 起業や六次産業化について理解します。	○商品開発を行います。 ○実践発表会	学 年 末 考 査
	【課題・提出物等】				
	○授業でのワークシート、考査終了後に授業で記録したノートと考査での訂正を提出します。 ○実習の始めに製造についての口頭質問・小テストを行い、理解度を確認します。				
	【第3学期の評価方法】				
○学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価します。学期末において、観点ごとの総括的評価を行います。					
【年間の学習状況からの評価方法】					
○各学期末における観点別評価を基に、総合して学期末に5段階の評定にまとめます。					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	○地域資源活用に関する基礎的な知識や技能を身につけているか。また、実技を通して実践的な力をつけたか。	○学習活動への参加の仕方 や態度 ○ワークシート・レポート ○定期考査
思考・判断・表現	○農林業・農山村に関する課題を多面的に考察しているか。また、課題を科学的にとらえて合理的に解決し、表現できる実践的な態度を身につけているか。	○学習活動への参加の仕方 や態度 ○ワークシート・レポート ○定期テスト ○実践作品
主体的に学習に取り組む態度	○地域資源活用について興味・関心を高めているか。また、課題の探求に意欲的に取り組み、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	○学習活動への参加の仕方 や態度 ○ワークシート・レポート ○定期考査 ○実践作品
【観点別学習状況の評価】		
A …… 「十分満足できる」状況と判断されるもの		
B …… 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの		
C …… 「努力を要する」状況と判断されるもの		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	○常に主体的に取り組み、考えや調査した資料などを必ず記録しましょう。 ○ワークショップ型の取組が主です。一人ひとりが参加し、自分の考えを表現できるように努力しましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	○始業のチャイムで授業を始める準備が整っているようにして、授業に集中するとともに板書は必ず記録し、忘れ物がないようにしましょう。 ○外部の方との交流もあります。身だしなみはきちんとし、礼儀正しい態度で取り組みましょう。
その他	地域資源活用は農林業・農山村の多面的な機能を学ぶ教科です。地域を支える視点で自分たちができることは何か考え、積極的に授業をうけることを期待します。